

令和7年度 応神中学校 総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指数と活動計画	評価		
1 豊かな心の育成	①主体的に学校生活を送れる生徒の育成 ②人権教育の推進 ③特別支援教育の充実	評価指標 生徒アンケート ①「楽しい学校生活を送っている」 ②「互いの人権を大切にし、仲間を大切に生活している。」 教職員アンケート ③「教職員は特別支援教育について正しい理解と見識をもち、支援の必要な生徒に応じた手立てや支援を工夫している。」	評価指数の達成度 ① A 98.0% ② A 95.0% ③ A 100%	(評定) A (所見) 学校生活が楽しいと回答した生徒が昨年より3.7%超えていることは、授業ばかりでなく行事等に意欲的に取り組んでいる生徒が多いことが分かる。	○生徒が何事に対しても、主体的に取り組み成就感を味わえるような、「仕掛け」を教職員間で話し合い、工夫しながら取り組んでいく。 ○現在の自分に対して自信をもったり、将来への期待がもてるように自己肯定感を高める主体的な活動を増やしていく。
		活動計画 ①委員会活動や学級活動行事等を設定することで生徒が積極的に取り組み充実できるようにする。 ②人権研修等を行い、いじめや差別解消に向けての意欲と実践力を全教職員で育む。 ③指導の手立てについて、普段から支援の必要な生徒についての情報交換をし、共通理解を深める。	活動計画の実施状況 ①生徒主体性を育むため各行事等において活躍できる役割を与えるよう工夫した。 ②人権講演や地域でのフィールドワークへの参加を通して研修を行い、人権教育につなげた。 ③プリントへのふりがなづけや短文でわかりやすい指示をするなどして、生徒理解に努めた。		
2 たくましく生きる力の育成	①健やかな体の育成 ②心によりそう生徒指導の徹底 ③生徒主体の活動の活性化	評価指標 保護者アンケート ①「学校は生徒が快適に生活したり学習したりできるような環境づくりに取り組んでいる。」 生徒アンケート ②「先生は、あなたのことをよく理解してくれる。」 ③「目標をもって学校生活を過ごしている。」	評価指数の達成度 ① A 88.0% ② A 82% ③ B 82%	(評定) B (所見) 自分の可能性を探し、それが目標へつながりゴールイメージをもたせられるような意識付けをした。	○キャリア教育のために、職場体験学習等で実際に体験活動を行っている。そのことで、将来への目標づくりにもなり、推進にもなっていると思う。今後も続けていってほしい。 ○体験活動を計画的に取り入れ、課題解決が主体的に行えるような支援をしていく。 ○職業体験や出前授業等のキャリア教育を充実させ、目標をもち、生き生きと学校生活を送ることができるよう生徒の育成を目指す。
		活動計画 ①日々の清掃活動の指導や、定期的な環境点検により、校舎内外の環境づくりをする。 ②生徒の言動に注視し、適切な声かけや励ましを行い、全教職員で支援を行う。 ③自分の可能性を見つける機会を多く設け、計画的、継続的にキャリア教育を進める。	活動計画の実施状況 ①保護者と生徒に参加を呼びかけ、奉仕作業を行った。 ②教員が1人1人への細やかな声かけや会話を心がける。 ③職業調べや職場体験学習をするなどしてキャリア教育に努めた。		
3 確かな学力の育成	①「わかる授業」の創造 ②家庭学習の支援 ③学習規律の確立	評価指標 生徒アンケート ①「先生は、生徒が意欲をもって学習できるよう工夫し、わかりやすく授業を行っている。」 ②「夏季休業中やテスト前等に勉強会を開く。」 ③-1「授業の準備物などを忘れることなく、用意ができています。」 ③-2「真剣に授業に取り組んでいる。」	評価指数の達成度 ① A 92.0% ② A 夏季・冬季休業中・テスト前に実施 ③-1 B 87.0% ③-2 B 81.0%	(評定) A (所見) 授業に主体的に取り組もうとしている。勉強会も人数が増えてきているが、家庭学習が十分でないため実力へと結びついていないところが課題である。	○生徒をよく観察し、個に応じた学習をすすめている。 ○教職員の細やかな支援により、どの学年も落ち着いて学習に取り組んでいる。 ○目標に向かって、今どのように学べばよいのかを指導したり、支援したりしてほしい。
		活動計画 ①相互授業参観等により教員間で授業の工夫を共有し、授業研修を行う。 ②目標設定をしたり、テスト前に勉強会を開催したりして、自主的な学習への意欲付けを図る。 ③職朝や生徒指導委員会で、学習の様子などについて共通理解を図る。	活動計画の実施状況 ①教員間で授業の工夫を共有し、相互授業参観等により授業研修を行う。 ②夏季休業中や冬季休業中、テスト前の放課後に英語、数学等の勉強会を行った。 ③授業態度や生活面などについて、職員会等で共通理解を図った。		
4 保護者・地域との連携	①積極的な情報発信 ②「応神学園」としての連携推進	評価指標 保護者アンケート ①-1「学校は、教育目標や教育方針を学校だより等を通じてわかりやすく伝えている。」 ①-2「学校は、家庭への連絡や保護者との意思疎通を適切に行っている。」 ②「地域の幼小中高等学校や地域の方々とは適宜連絡を取り合い、学期に1回以上情報交換をする。」	評価指数の達成度 ①-1 A 91.0% ①-2 B 84.0% ② A 毎学期1回実施	(評定) A (所見) すぐるやホームページで情報発信ができた。また、学校運営協議会が活発に行われ、学校の運営状況等について共有ができた。	○地域とともに子どもたちの成長に応神学園運営協議会が大きく貢献していると考えられる。今後も保幼小中中で引き続き連携した取組をしてほしい。困ったときは相談してほしい。 ○地域とともにある学校として、さらに活性化できるように、意見の聴取、課題の解決等にむけて積極的に取り組む。
		活動計画 ①連絡アプリをはじめ、ホームページや学年だよりで、教育活動の様子や学校からの連絡等を積極的に発信する。 ②教育活動や学校行事の際には地域や保護者などに呼びかけ、学校への案内をする。	活動計画の実施状況 ①可能な限り毎日ホームページを更新し、修学旅行や遠足もリアルタイムで発信した。また必要なのは連絡アプリでも連絡をした。 ②学校運営協議会を毎学期開き地域の方々からの意見をいただき、学校の運営状況の報告も行った。		

「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった